

恵庭市ミニバスケットボール少年団活動ガイドライン

令和4年8月

《団活動の進め方》

- **バスケットボールを通じて、コミュニケーション能力や基礎運動能力、心身のケア能力の向上を目指し、バスケットボールを好きになってくれることを大事にする。**
※スポーツ本来の目的である健全育成を忘れずに、チームメイトに対しては、協力（相手を思いやる）・尊重（お与いを認める）の気持ちを持ちましょう。

- **競争力や、ルールの習得、自己コントロール能力を高める一方で、過度な勝利至上主義に陥らないようにする。**
※ 子ども達は、上手くなりたい、勝ちたい気持ちを持つことは重要ですが、指導者、保護者は、団全体を見ることや、全ての子ども達が参加しやすい環境作りを忘れないようにしましょう。
勝利＝喜びだけに陥ると、敗戦・ミス＝悪となり、【個人を責める】、【過度な指導（暴力・暴言）】、【過度な期待（保護者→指導者）】、と負の連鎖に繋がることを忘れないように心掛け、保護者と指導者のコミュニケーションを欠かさないようにしましょう。

- **子ども達の健康・安全に留意し、事故防止を徹底する。**
※ 大会で勝つために、怪我や病気の子供が無理をして出場しているケースがあります。成長期の子どもに過度な負荷は、将来にも影響しますので、無理はさせず休むことを優先する雰囲気を指導者、保護者で作らしましょう。

- **学校の教育活動(運動会、学習発表会等)に支障を来たさないように連絡・調整を密にする。**
※ 本来子ども達は、学校教育活動を中心に生活すべきことを忘れずに、行事の前後は必ず休養日とするため、学校行事の把握は、保護者、指導者で共有しましょう。

- **指導者や保護者の負担(経済的・肉体的・精神的・時間的)が過重にならないように運営する。**
※ 勝利至上主義による練習日、練習時間の増大、練習試合、大会参加の増加等により、指導者や保護者の負担増大に加え、子ども達の怪我リスクが高まります。
経済的負担、時間的拘束を必要最小限とし、多くの子どもたちが参加できるスポーツ環境をつくるためにも、指導者や保護者にとって無理のない範囲で活動をしましょう。
 - 週の練習 3日以内（土日いずれかは休養日、祝日は基本休養日）
 - ※4年生以下は2日程度
 - 練習時間 平日2時間以内 休日3時間以内（4年生以下は2時間以内）
 - 練習試合 大会日程を考慮した設定とし、月1回程度とする。
 - 遠征など 年1回程度を目安とする。

- **子ども同士、保護者同士、指導者同士など関わっている人に感謝の気持ちで接する。**
※ 全ての人が、挨拶、御礼など礼儀を持って少年団に参加しましょう。
- **年間の活動計画（大会等参加計画も含む）を作成し、見通しをもった指導をする。**
※ 無計画な活動は、1回の練習時間を長引かせたり、大会や練習試合の参加回数を増やしたりすることになりますので、指導者が計画を作り、保護者との共有・協議により毎年の活動内容を広く公表しましょう。
- **勧誘活動や体制を確立する。**
※ チームスポーツである以上、多くの子ども達が入団しないと運営は出来ませんので、様々な環境の子ども達に参加できるように工夫をしていきましょう。
 - ・ 一斉勧誘 【年 2～3 回程度】
 - ・ 勧誘方法 【チラシ配布、子ども達の声掛け、学校への協力依頼など】
 - ・ 練習参加 【初心者や低学年を指導出来る人材確保】

【保護者】

- **基本的な生活習慣づくりに努めるとともに、学校生活とのバランスを考える。**
※ 子どもたちは、スポーツ活動をとおして、栄養や睡眠の大切さ、礼儀などを学ぶことができます。家庭では、規則正しい生活習慣や礼儀作法などを伝えてあげましょう。
- **主体性や自主性を育てるため、子どもたちにできることは、子どもたちに任せる。**
※ 親の過干渉により、子どもたちの自主性や自律性の伸長を妨げられることが心配されます。スポーツ活動をとおして、社会性や道徳性を伸ばすために、子どもたちにできることは、できる限り子どもたちに任せるようにしましょう。
- **指導者や審判の非難をせず、指導者や子どもたちの良きサポーターになる。**
※ 勝敗に固執するあまり、指導者や審判、相手チームの非難をする方もいます。スポーツ活動を通して、フェアプレーの精神やフレンドリーシップを子ども達に伝えるためにも、まずは保護者が手本を示しましょう。
- **家庭でもいろいろな運動の機会を設けたり、スポーツの意義や魅力を話題にしたりする。**
※ 成長期に単一種目ばかりをしていると、バランスのとれた体力向上が図れないことが報道などでも発表されています。地域のスポーツ行事に参加させたり、子ども同士で運動遊びをさせたり、親子でスポーツを楽しんだりするなど、多様な運動経験の他、家族で登山やサイクリング、外遊びなどの運動をして、親子一緒の時間も確保しましょう。

【指導者】

□ 結果より過程を重視し、一人一人の伸びや頑張りを認め、励ます。

※ U-12 指導方針を遵守し、インテグリティの精神を持って、子ども達個々の状況を見るように、広い視点を持ちましょう。

□ 指導力向上のため、研修会参加や参考資料を活用。

※ 過去の経験だけで指導するのではなく、よりよい指導ができるように、体や心の仕組み、トレーニング法などを勉強し、指導者としての資質を高めることや、スポーツには研究心や向上心、行動力が大切であることの手本となりましょう。

習得した知識は少年団で共有し、全体の指導力向上を図りましょう。

□ 暴力、暴言の根絶を徹底する。

※ 体罰や暴言は、いかなる場合も絶対に許されません。

指導者の思いどおりに動けない子どもに対して、不満がこみ上げることは勿論ありますが、そこをコントロールするのが、大人であり指導者として必要なことです。

指導者の方は、学校教育者では無い方がほとんどであることから、コントロールも難しいと思いますが、【出来ない→伝わっていない・まだ出来ない】と捉え、伝え方を変えたり、わずかな進歩に目を向け、伸びに気づかせたり、励ましたりすることで自信をもたせると、子ども達も変化していきますので、様々な方法を考えて、自身の気持ちもコントロール出来るようになりましょう。

また、指導者同士でも暴言などが無いか注意を払い、冷静に対応しましょう。

□ 個人差に配慮し、画一的な指導にならないようにする。

※ 能力の高い子ども中心の練習を行っては、そこから取り残されてバスケットボールを楽しめなくなる子どもが発生します。

入団した子ども達全員にスポーツや運動の楽しさを提供することが、指導者の役割です。年齢差・技能差などを指導者全員で共有し、活動意欲の保持に努めましょう。

□ 多様な指導のために複数人の指導者を確保する。

※ 画一的な指導とならないためにも、一人の負担を減らすことが重要となります。

学校の先生、バスケット経験がある保護者、市内でバスケット活動しているクラブチームの方などに声掛けをし、積極的に参加させましょう。

また、【全ての練習に参加出来ない】、【子どもが居る間だけ】、【土日だけ】などでも指導者として迎え入れ、ハードルを下げることで多くの協力者を確保しましょう。

(低学年や4年生以下の指導だけなど役割分担も)

【学校との協力】

□ 学校との連携も大事にし、良好な関係性の構築に努める。

- ※ 少年団と学校が連携することで、体育館利用や教員指導者の確保などにも繋がります。保護者、指導者から意見があっても、伝える機会がないと改善にはなりません。学校との繋がりを持つことで、活動の課題を解決することも可能となりますので、学校関係者（校長・教頭など）へ活動方針や活動内容を伝える機会を作りましょう。

□ 子どもたちの地域スポーツ活動に理解や関心を。

- ※ 教職員の方からの賞賛や励ましは、子どもたちの意欲を高めます。学校でも子どもたちの地域スポーツ活動の様子について話題にしたり、大会参加に対して応援をしたりするなどの協力をお願いしましょう。

□ 指導法や運動プログラム等、スポーツ活動に役立つ情報提供を依頼する。

- ※ 教職員の方は、子供への指導についていろいろな経験と研修を積み重ねています。子ども達との接し方や運動プログラム等について教職員の方から情報提供してもらうことで、少年団活動の推進を図りましょう。